

《出展物、出展内容の紹介、見どころ 等》

日本有数の航空宇宙産業都市である岐阜県各務原市(かかみがはらし)。

このブースでは、古くからの技術蓄積とビジネスネットワークを有し、また、先端技術への対応を進める企業群と、これを支える支援組織など、岐阜・各務原地域の集積の強みを御紹介します。

【各務原市の航空宇宙産業】

1917年、現存最古の飛行場である各務原飛行場(現:航空自衛隊岐阜基地)が開設。周辺には陸軍航空廠、川崎造船所、三菱内燃機が相次ぎ立地し、各務原市の航空機産業の歴史が始まりました。戦後の空白期を経て、再び川崎重工業岐阜工場を中心とした産業集積が進み、以来、数多くの航空機の開発・生産が行われ、各務原市は多くの機体の”初飛行の街”となっています。その技術を活かした宇宙関連機器の生産も行われ、わが国航空宇宙産業の中核を担う地域となっています。

【岐阜・各務原地域での産業振興】

各務原市は、平成20年に策定した産業振興ビジョンの第一の基本戦略に「ものづくり活力の強化」を掲げ、航空宇宙産業を支える中小企業の高度化支援に取り組んでいます。また、岐阜県が、CFRP成形・加工への参入などを支援する「航空機部材研究会」を立ち上げ、第3セクターのブイ・アール・テクノセンターにおいても、機体メーカーや中日本航空専門学校、岐阜大学などと連携した「航空宇宙生産技術中核人材育成プロジェクト」を実施するなど、地域として航空宇宙産業の振興に取り組んでいます。



大正から昭和にかけて各務原市で量産されたサルムソン2A-2
(近代化産業遺産認定)

多くの実機を展示するかかみがはら航空宇宙科学博物館

